

平成 23 年度第 1 回理事会議事録

日時 平成 23 年 6 月 11 日 (土) 10:00~15:30

会場 都市センター 3 階「コスモスⅡ」

出席者

理事長：吉村 泰典

副理事長：和氣 徳夫

理事：石河 修、岩下 光利、岡井 崇、片渕 秀隆、嘉村 敏治、木村 正、工藤 美樹、
小西 郁生、杉浦 真弓、武谷 雄二、平原 史樹、深谷 孝夫、峯岸 敬、吉川 裕之

監事：岡村 州博、星 和彦

第 64 回学術集会長：平松 祐司

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹事：金内 優典、北澤 正文、久具 宏司、小林 陽一、榊原 秀也、下平 和久、高倉 聡、
多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、濱田 洋実、阪埜 浩司、藤原 浩、増山 寿、
渡部 洋

議長：佐川 典正

副議長：清水 幸子、内田 聡子

専門委員会委員長：久保田 俊郎、齋藤 滋

理事会内委員会委員長：海野 信也、竹下俊行

プログラム委員長：塩田 充

弁護士：平岩 敬一

事務局：荒木 信一、桜田 佳久、青野 秀雄、小山 圭子

10 時 00 分 理事長、副理事長、常務理事、理事の総数 23 名のうち 16 名（落合副理事長、井上理事、吉川(史)理事、倉智理事、櫻木理事、星合理事、八重樫理事は欠席）が出席し定足数に達したため、吉村理事長が開会を宣言した。吉村理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、岡村監事、星監事の計 3 名を選任し、これを承認した。

I. 平成 23 年度第 1 回臨時理事会議事録（案）の確認

原案通り、承認した。

II. 主要協議事項

1. 平成 22 年度確定決算について

(1) 5 月 20 日に平成 22 年度の決算監査を行い、併せて会計担当理事会を開催した。平成 22 年度決算については 6 月 25 日の総会に諮る予定である。〔資料：会計 1、2、3、4、5、6〕

平成 22 年度決算に関して和氣副理事長及び桜田事務局次長より説明があった。桜田事務局次長より監査に関しては監査法人による任意監査が行われ、平成 22 年度の財務諸表及び収支計算書につき適正表示の意見を得たとの報告があった。岡村監事より監事 3 名による平成 22 年度会計及び業務監査の結果、適正であるとの報告があった。

平成 22 年度確定決算に付き、特に異議なく全会一致で承認した。

2. 運営委員会の答申について [資料：運営委員会 1]

(1) 平成 23 年度定時総会（開催日時：6 月 25 日（土）14:00~15:30、場所：都市センター）

の議案について [資料：運営委員会 2]

岩下委員長「昨日の運営委員会では、定時総会終了後に就任した新理事の互選で新理事長が選出されたすぐ後に、総会出席者の前で旧理事長と新理事長に挨拶していただくことになった。」

佐川議長「新理事長の選出および挨拶について広報するため、総会次第の第 4 議案のあとにその旨を書いておいたほうが良い。」

岩下委員長「工夫して案内するようにする。」

平成 23 年度定時総会の議案について、特に異議なく全会一致で承認した。

(2) 第 67 回学術集会長候補者の公募および選定委員会委員について

第 67 回学術集会長候補者の公募について、

「会員へのお知らせ」をホームページ及び機関誌 6 月号に掲載したい。 [資料：運営委員会 3]

岩下委員長「昨日の幹事会で内規について検討し、選定委員会委員の選任は理事長にお願いする方向で修正していくこととなった。」

吉村理事長「委員の選任は理事長に依頼し、委員長は委員の互選でという方向で進めていけば立候補者が委員を選任するというような不都合は防げられると思われる。」

特に異議なく全会一致で承認した。

(3) 本会の理事定数を 25 名とする件について [資料：運営委員会 4]

岩下委員長「公益社団法人化に伴い 2 名を増員する方向で検討しており、来年 4 月の臨時総会で提示できるように議論を進めていきたい。」

吉村理事長「ここでは 25 名にすることをご承認いただいて、具体的な決め方については新体制で組成される新しい委員会で検討していただきたい。」

武谷理事「理事の決め方については公益社団法人としての縛りはあるのか。例えば理事長一任のような決め方も可能なのか。」

平岩弁護士「理事の選任に理事会が関与してはいけない、というのが当初の公益認定等委員会の考え方だったと思う。基本的には代議員の数に比例するのが公正だが、その組織それぞれの目的に沿って、若干名に関しては特別な方法で選出しても問題はない。」

吉村理事長「特別な方法で選出された理事についても最終的に総会での承認が必要である。理事長推薦方式には長所があるが、理事長は理事の互選で決まるため、理事長により推薦された理事はブロックから推薦された理事と同時に承認されることはありえず、一回で決められないという問題がある。」

佐川議長「2 名の増加定数の配分方法だけでなくブロック制の見直しも含めて、理事選出方法に関して新しい委員会からいくつかの選択肢を示してもらい、社員総会で決定していくことになる。」

岩下委員長「なお来年の定時総会で新たに選ばれる 2 名の理事の任期は 1 年としたい。」

特に異議なく全会一致で承認した。

(4) 女性ヘルスケア委員会の委員数について [資料：運営委員会 5]

岩下委員長「新定款では専門委員会は委員長などを合わせて 12 名以内との規定なので要望通り 8 名に増員することはできる。また他の専門委員会も、要望があれば定款上は増員できるが、予算との関係で慎重に進めてほしい。また専門委員会の活動については、運営会議、評価会議でチェックすることが内規に定められているが、いままで十分に機能しているとは言えなかった。今後はこの点も改善していきたい。」

吉村理事長「専門委員会は、学会の活動として大変重要であり、今後も業務は増えると思われる。内規も一部改訂し、円滑な運営と成果の上がる仕組みを進めて欲しい。」

特に異議なく全会一致で承認した。

(5) 第 63 回学術講演会での公開シンポジウムについて [資料：運営委員会 6]

岩下委員長「演題については、日本産婦人科医会と被災地の病院の産婦人科医師にも講演をお願いする予定である。また学術委員会が学術講演会の開催期間は 3 日間と決めているため、このシンポジウムは学術講演会の枠外の行事となるが、学術講演会の受付はシンポジウムの行われる学術講演会前日から行い、専門医シールを配布することとしたい。」

特に異議なく全会一致で承認した。

Ⅲ. 専門委員会報告並びに関連協議事項

1) 平成 23～24 年度専門委員会委員および小委員会委員について [資料：専門委員会 1]
特に異議なく全会一致で承認した。

2) 生殖・内分泌委員会 (久保田俊郎委員長)

(1) ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

6月1日現在、入金済 5,083 冊、校費支払のため後払希望 2 冊。

(2) 5月12日に、平成23年度第1回の日本産科婦人科学会生殖医療連絡協議会を開催し、生殖医学会で行った東日本大震災後の生殖医療の現状のアンケート調査の結果について検討し、意見の交換を行った。

久保田委員長「生殖医療のアンケート調査は242通回収したが、震災の影響による配偶子の喪失は東北地方のみならず関東地方でもあった。さらに計画停電の影響もあった。まだ東北地方の最終結果が出ていないが、委員会では震災時のガイドラインや同意書の改訂が必要との意見が出ている。」

3) 婦人科腫瘍委員会 (櫻木範明委員長欠席につき小西理事)

(1) 「絨毛性疾患取扱い規約」改訂委員会での規約の改訂作業について [資料：専門委員会 無番]

小西理事「肉眼的診断から組織学的診断、遺伝子学的診断法に大きく変更された。FIGOとの整合性も加味されており、現在改定の最終段階に来ている。」

和氣副理事長「診断基準の変更に伴い国際的な報告がしやすい状況となることが期待できる。」

吉村理事長「編集に関わった日本病理学会からは、印税の分配に関する依頼を受けているので配慮してほしい。」

(2) 卵巣がん関連新聞記事 [資料：専門委員会 2]

6月8日付 朝日新聞記事「卵巣がん検診 効果に疑問？」

小西理事「世界でも一般的に卵巣がん検診は推奨されていないが、現在半分ぐらいは検診が有効で、半分は無効なのではと考えている。」

4) 周産期委員会 (齋藤滋委員長)

(1) 4月30日に日本小児科学会、日本産婦人科医会および本会で、正期産新生児の診療指針の合同会議が開催された。なお同会議には本会より海野先生、水上先生に参加していただくこととした。

[資料：専門委員会 3]

齋藤委員長「この診療指針について、コンセンサスミーティングの開催が必要であることを小児科学会に説明したところ、その方向で修正を受け入れていただいた。」

(2) 抗インフルエンザウィルス薬投与妊婦の出産と小児に対する特定使用成績調査を論文等で広く公表するに当たり、調査に協力いただいた各施設に、論文投稿についても協力いただけるよう本会から依頼した。 [資料：専門委員会 4]

齋藤委員長「胎児奇形の評価を慎重に行った上で、論文として報告するように準備を進めている。」

吉村理事長「協力いただけない施設には何か理由があるのか。」

齋藤委員長「調査には協力するのだが、論文を作成するには再度倫理委員会を通さなければいけない施設もあり、時間がかかるということである。」

(3) 平成23年5月27日に第1回の周産期委員会を開催した。 [資料：専門委員会 5]

(ア) 常置的小委員会活動として以下の3小委員会を組織した。

① 周産期登録事業に関する小委員会 (委員長 佐藤昌司)

② 周産期における医薬品・医療機器の諸課題に関する小委員会 (委員長 竹田 省)

③ 胎児機能不全診断基準の妥当性検討に関する小委員会（委員長 池田智明）

(イ) 小委員会として公募小委員会を含め以下の5委員会を組織した。

① 周産期救急医療体制の構築とその対応に関する小委員会（委員長 松田義雄）

② 妊産婦死亡の原因究明とその対応に関する小委員会（委員長 金山尚裕）

③ 胎児診断の向上に関する小委員会（委員長 増崎英明）

④ 胎児骨系統疾患の出生前診断と周産期ケアのガイドライン作成に関する小委員会（委員長 室月 淳）

⑤ 新規周産期登録データベース構築に関する小委員会（委員長 斎藤 滋）

吉村理事長「周産期委員会は小委員会の数が多いが予算との関係はいかがか。」

岩下理事「今後、小委員会の活動評価を行いながら検討する。」

吉村理事長「周産期の小委員会はメールでの会議が活発に行われており、現在のところ予算的にも効率良く活動いただいているように思う。活動内容とともに高く評価したい。」

(4) 未承認薬問題について

(ア) 抗D免疫グロブリンの妊娠28週前後及び流産等の感作の危険があるときへの適応拡大について、既に保険収載はされていたが、このほど添付文書改定が決定した。

(イ) かねてから妊娠後半期の禁忌をはずすことを要望していた「ラベタロール」および「ニフェジピン」について、6月23日に審査が行われる予定となり、周産期委員会の「周産期における医薬品・医療機器の諸課題に関する小委員会」委員長 竹田省教授が参考人として出席予定となっている。

(ウ) 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議による第2回公募が行われることになり、その説明会が6月3日に開催される旨の連絡があった。竹田省教授が出席する予定となっている。

(5) 厚生労働省の研究班がまとめた「母乳中の放射性物質濃度等に関する調査」について、関係6学会共同の見解をQ&Aとしてまとめた。 [資料：専門委員会6、7]

母乳調査に関する新聞記事 [資料：専門委員会8]

6月8日付 産経、朝日、読売新聞記事「福島の7人の母乳から微量の放射性物質」

齋藤委員長「関連学会の間でいろいろと議論があったが、『母乳中の放射性物質の問題で心配されているお母さん方へ』を入れて、わかりやすい表現になった。また福島県で県民を対象にした向こう30年間にわたる健康調査が始まる。本会としてもこれに全面的に協力していきたい。」

海野副委員長「県外に移動された妊婦さんも多く、この方々へもアンケート調査ができるように準備をすすめている。」

5) 女性ヘルスケア委員会（堂地勉委員長欠席につき、石河理事）

石河理事「骨盤臓器脱に関する実態調査は、今後日本泌尿器学会と協調して進めていけると思われる。」

吉村理事長「委員会の活動報告をホームページに公表するようにお願いしたい。」

IV. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総務（岩下光利理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向 [資料：総務1]

岩下理事「平成22年度の新規入会会員数は540名に増えている。女性は67%となっている。」

吉村理事長「一応数は増えているが、もう少し男性が増えてくると良い。以前の危機的状況はまぬがれたが予断は許さない。」

海野委員長「2007年と2008年を分析すると必ずしも新規会員は増加していない。また男性医師の増加は頭打ちになっている。」

齋藤委員長「サマースクールでもこの点を考慮し、男性医師を対象に男性医師の必要性をアピールしている。」

(2) 東日本大震災の義援金について

4月22日に医会との救援対策本部会議を開催し、義援金の配分方法を決定した。 [資料：総務2]

岩下理事「医会を窓口としての義援金の合計は5月19日現在で1億3千万円強となっている。」

吉村理事長「当初義援金として集めた資金が支援金として使われている点には多少首を傾げる。なお本学会に配分されたものは、海外からの寄付も含めて医療物質や医師派遣の経費に使用している。」

(3) 石巻地区、宮古地区への人的支援について [資料：総務3]

岩下理事「各大学の協力のもとに資料に示したスケジュールで滞り無く進められている。」

(4) 「大気や飲食物の軽度放射性物質汚染について心配しておられる妊娠・授乳中女性へのご案内（続報）」および「同続報に係る Q&A」をホームページに掲載した。 [資料：総務4、5]

(5) 「放射性ヨウ素 (I-131) が検出された母乳に関して心配しておられる授乳中女性へのご案内」をホームページに掲載した。 [資料：総務6]

吉村理事長「海野先生、齋藤先生、水上先生をはじめ周産期委員会の先生には大変ご尽力していただいた。」

(6) 第64回学術集会における学術集会幹事について

以下の5名の先生方に幹事を委嘱したい。

児玉順一先生、本郷淳司先生、鎌田泰彦先生、中村圭一郎先生、瀬川友功先生

特に異議なく全会一致で承認した。

(7) 公益法人化に伴う学術集会の事務および役割の明確化について

学術集会の開催に関して、本会、学術集会長およびコンベンション会社との3者契約書を締結することとしたい。 [資料：総務7]

吉村理事長「会計をより明確にして運営することになる。学術集会長が学術的なことに専念して企画できるように徐々に変えていきたい。」

特に異議なく全会一致で承認した。

(8) 各委員会の規約について、公益社団法人移行を踏まえた見直しを各主務幹事に依頼しており、6月10日の幹事会で協議した。

岩下理事「昨日の幹事会で検討した結果を次回10月1日の理事会で諮る予定としたい。」

(9) 埼玉医科大学の藤原恵一先生が、卵巣明細胞腺癌に対する新規化学療法確立のための医師主導治験を行う際に日本医師会医師主導治験支援センターに支援を申請するに当たり、本会からの推薦を求める要望書が提出されたので応諾した。 [資料：総務8]

(10) J A札幌厚生連 札幌厚生病院の三國雅人先生から、本会の生殖・内分泌委員会及び倫理委員会宛て、尿由来ゴナドトロピン製剤についてのプリオン混入についての検討依頼の書面を受領した。

[資料：総務9]

吉村理事長「我が国では尿由来ゴナドトロピン製剤を使用せざるを得ない状況である。これは生殖・内分泌委員会で時間をかけて検討していただくことが必要である。」

和氣副理事長「本件は世界的にも注目されている。ただプリオン混入の証明にはかなり専門的な知識が必要となる。」

武谷理事「この情報を厚労省が把握しているかどうかも重要である。そこに本会の取組みを了解してもらっておく必要がある。」

吉村理事長「まず厚労省に対して質問状を送ることから始めていくことにしたい。」

竹下委員長「この議論のもととなる論文は、プリオンが表に出ない形で承認されるなど、複雑な経緯があった。」

深谷理事「患者への対応もあり、学会の態度を早急に決定していく必要がある。」

(11) 編集担当職員の紹介派遣について

機関誌及び JOGR の編集担当育成のための職員 1 名の採用に関して、昨年 10 月から約 5 ヶ月程度、紹介派遣を受けたが採用には至らなかった。今回、再度 7 月から 3 ヶ月間、紹介派遣を受入れ、期待に沿う人材であれば、正規職員として採用したい。

(12) 荒木事務局長の退職と顧問就任および桜田事務局長の就任について

岩下理事「6 月 13 日から荒木事務局長が顧問に就任され、桜田次長が事務局長に就任する。」
特に異議なく全会一致で承認した。

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 内閣府

内閣府公益認定等委員会事務局から、東日本大震災に関して被災者支援や震災復興に向けた活動等、各法人の取組事例を公表したいので実施している活動を記入様式に沿って提出してほしい、との依頼があり、本会の活動をまとめて提出した。[資料：総務 10]

(2) 財務省

同省主計局給与共済課より、東日本大震災に伴う出産費等の医療機関等への直接支払制度における組合員証等の提示について、今般、組合員証等の再交付が行われることから取扱いの周知を依頼してきた。HP に掲載したい。[資料：総務 11]

(3) 厚生労働省

①厚生労働省医薬食品局審査管理課より、医療用医薬品の有効成分のうち一般用医薬品としての利用も可能と考えられる候補成分についての意見提出依頼があった。10 品目についてのスイッチ化に関して特段の意見があれば 7 月 26 日までに提出するように求められている。[資料：総務 12]

②厚生労働省結核感染症課新型インフルエンザ対策推進室から、同室が「メルマガ 感染症エキスプレス@厚労省」の情報提供を行うについて本会会員への周知依頼があり、本会機関誌および HP に掲載した。

③厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課および文部科学省研究振興局ライフサイエンス課の担当者が 6 月 1 日に事務局に来訪し、両省共同で定めた「ヒト受精卵の作成を行う生殖補助医療研究に関する倫理指針」について、久具倫理副委員長に説明した。

④子宮頸がん関連新聞記事 [資料：総務 13]

朝日、日経新聞 5 月 31 日付記事「子宮頸がんワクチン 厚労省 2 種類目承認の方向」

(4) 文部科学省

同省研究振興局ライフサイエンス課と厚生労働省大臣官房厚生科学課の連名にて、被災地で実施される調査・研究について遵守すべき項目についての通知があった。[資料：総務 14]

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会・日本医師会

①日本医学会を通して、厚生労働省の検討会がとりまとめた報告書「再生・細胞医療に関する臨床研究から実用化への切れ目ない移行を可能とする制度的枠組みについて」の周知依頼があった。HP に掲載して会員に周知した。[資料：総務 15]

②日本医師会は、4 月 19 日に文部科学省が発出した「福島県内の学校・校庭等の利用判断における暫

定的な考え方」に対するの見解を5月12日に出した。[資料：総務16]

海野委員長「日本小児科学会はこれに賛同するとの声明を出している。」

岡井理事「医学的情報以外の政治的な政策に関しては対応しないほうが良い。」

吉村理事長「この件に関しては本学会からは声明を出さないこととする。」

③両会連名にて本年度も「平成23年度女子医学生、研修医等をサポートするための会」の開催に対する費用補助を行う旨の通知を受領した(補助費用上限：30万円、申請最終期限：12月22日)。
[資料：総務17]

(2) 日本婦人科腫瘍学会

日本婦人科腫瘍学会より、同学会が作成した頸癌治療ガイドライン2011年版を今秋に発刊するに当たり、本会の意見を求めてきた。本件は婦人科腫瘍委員会での検討をお願いした。[資料：総務18]

(3) 子宮頸がん征圧をめざす専門家会議

同会議から「子宮頸がん予防ワクチンの接種スケジュールについて」のステートメントが送られて来た。

[資料：総務19]

(4) 医療技術産業戦略コンソーシアム

同組織の未承認医療機器による臨床研究戦略会議で作成した「未承認医療機器の臨床研究実施の手引き(案)」について、意見を求める依頼書が送られてきた。[資料：総務20]

[IV. その他]

(1) 第一三共株式会社より、デュファストン錠®5mgの供給調整を行う旨の通知があり、これをHPに掲載して会員に周知した。[資料：総務21]

2) 会 計 (和氣徳夫副理事長)

(1) 地方学会宛通知

①各地方学会宛に、1. 平成23年度会費、2. 過年度会費滞納者への機関誌発送停止と滞納会費納入依頼、3. 会費の送金方法、4. 入退会の取扱い、5. 住所移動などの連絡、6. 物故会員への弔電、などについて通知予定である。

②該当地方学会宛に、会員資格喪失の取扱いならびに対象となる2年以上会費滞納会員に対し会費納入の意思確認を依頼する文書を送付予定である。なお、事務局からも会費滞納会員に対し未納の場合会員資格喪失となる旨の文書を直接送付する予定にしている。

(2) 取引銀行の格付と預金残高について [資料：会計7]

3) 学 術 (吉川裕之理事)

(1) 学術委員会関連

①平成23年度第1回学術委員会を6月10日に開催した。

②平成23年度学術奨励賞公募について [資料：学術1]

③平成23年度優秀論文賞公募について [資料：学術2]

④平成23年度「日本医師会医学賞」「日本医師会医学研究助成費」候補の推薦について

[資料：学術3、3-1]

吉川(裕)理事「『日本医師会医学研究助成費』については、学術委員会の中に選考委員会を設けて決定するので、ご一任いただきたい。」

(2) プログラム委員会関連

①第 63 回学術講演会プログラム (案) について [資料：プログラム委員会 1]

塩田プログラム委員長「後半の抄録集は 2 月号と同様で、前半は 7 月号として発刊する。海外からの出席者はほとんどキャンセルとなったが、その他の先生には前回の予定とほぼ同様に座長等の担当を快諾していただいている。会場の案内は部屋の番号で行っている。メインホールは一部の時間帯しか確保出来ていないが、工夫して会場の部屋を使用していきたい。懇親会は火曜日の午後に予定している。」

②8 月 28 日開催の公開シンポジウムを第 63 回学術講演会の追加プログラムとすることについて

塩田プログラム委員長「公開シンポジウムは第 63 回学術講演会の枠外となるが、この内容を DVD で残すように検討している。」

③第 64 回学術講演会プログラム (案) について [資料：プログラム委員会 2、2-1]

平松第 64 回学術集会長「Exchange program は日韓台に ACOG、SOGC を加えた 5 カ国で実施する予定である。日韓台の VIP 懇親会は 4 月 14 日(土)に計画している。また新しい企画として FIGO フォーラムを行う予定である。専攻医の教育プログラムも新たに企画している。」

④第 65 回学術講演会について [資料：プログラム委員会 3]

金内幹事「特別講演演者の推薦、シンポジウム課題の決定・担当希望者公募について、8 月に資料で公開していく予定である。」

⑤第 66 回学術講演会について [資料：プログラム委員会 4]

吉川(裕)理事「シンポジウム課題の公募を行っている。」

(3) ガイドライン—産科編

①「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2008」頒布状況について
6 月 1 日現在、入金済 11,940 冊、後払希望 0 冊。

②「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011」頒布状況について
6 月 1 日現在、入金済 7,187 冊、後払希望 103 冊。

吉川(裕)理事「5000 部の増刷予定である。」

(4) ガイドライン—婦人科外来編

①「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について
6 月 1 日現在、入金済 8,162 冊、後払希望 52 冊。

吉川(裕)理事「3000 部の増刷予定である。また 10 月 2 日に婦人科外来編、12 月 11 日に産科編の指導者講習会の開催を企画している。参加者は各地方学会から 1 名ずつ推薦していただく予定である。」

4) 編集 (岡井 崇理事)

(1) 会議開催

①JOGF および和文誌の編集会議を 5 月 20 日に開催した。

②平成 23 年度第 1 回編集担当理事会を 6 月 10 日に開催した。

(2) 英文機関誌 (JOGF) 投稿状況：2011 年投稿分 (平成 23 年 5 月末現在) [資料：編集 1]

投稿数 412 編 (うち Accept34 編、Reject142 編、Withdrawn/Unsubmitted 56 編、Under Revision56 編、Under Review 121 編、Pending 1 編、Expired 2 編)

岡井理事「投稿論文数の増加に従って徐々に採択率は下がっている。次期の編集会議で検討していただきたい。一方で査読にかかる日数は編集委員の努力で短縮されている。」

(3)AOFOG (9 月 23~27 日、於：台北) のアブストラクトサプルの冊子体発行の提案をワイリー

ブラックウェルより受領し、JOGR 編集会議で検討のうえ作成することとした。

(4) 会員からの要望である日本産科婦人科学会雑誌の電子図書館化について、印刷所と検討を進めている。
岡井理事「日本産科婦人科学会雑誌の電子図書館化は以前のアンケートで賛成が少なかったが、将来的に必要となる可能性があるので今後も検討していただきたい。」

(5) 和文機関誌ならびに英文機関誌の COI に関して [資料：編集 2]

岡井理事「COI の記載に関して具体的な金額の記載は行わないこととした。」

(6) 学術講演会講演要旨掲載巻号について

4 月開催予定の学術講演会が 8 月に延期になったが、なるべく従前に近い形での掲載を予定している。
演者の先生方には 8 月末日を脱稿日として執筆依頼を送付した。(5 月 26 日)

5) 渉 外 (落合和徳副理事長欠席につき、小林渉外主務幹事)

[FIGO 関係]

(1) 6 月 12 日～13 日、メキシコシティにて開催の FIGO 理事会に本会より落合副理事長が出席している。

(2) FIGO website に本会からの義援金募集のお知らせが掲載された。

[ACOG 関係]

(1) Dr. Ralph Hale 宛に第 63 回日産婦学術講演会に於ける Exchange Program の中止を通知した。

(2) 4 月 30～5 月 4 日ワシントン DC にて開催の The 59th Annual Clinical Meeting of ACOG に、本会より落合副理事長、平松第 64 回学術集会長、久具幹事、阪埜幹事、若手医師 5 名および青野事務局課長が出席した。 [資料：渉外 1]

平松第 64 回学術集会長「次期集会長の参加は大変参考になったので、今後も継続していただきたい。Exchange program に参加した若手で誰が次年度の Exchange program の手伝いをするか、早く決定してほしい。若手のレポートの情報も頂きたい。」

和氣副理事長「若手のレポートが有効に利用出来るように教育委員会で審議していただきたい。」

(3) CREOG Activities について [資料：渉外 2]

(4) 第 64 回日産婦学術講演会における Exchange Program に ACOG 役員 3 名、若手医師 11 名を招待する旨 ACOG へ連絡した。

[SOGC 関係]

(1) Dr. Lalonde 宛に第 63 回日産婦学術講演会に於ける Exchange Program の中止を通知した。

(2) 6 月 21～25 日バンクーバーにて開催予定の The 67th Annual Clinical Meeting of SOGC に、本会より落合副理事長、津田幹事、および若手医師 3 名が出席の予定である。 [資料：渉外 3]

(3) SOGC より東日本大震災復興支援のための義援金 10,000 カナダドルの送金を受けた。

(4) Dr. Lalonde より、” Andre Lalonde Permanent Endowment Fund” についての協力依頼を受領した。 [資料：渉外 4]

(5) 第 64 回日産婦学術講演会における Exchange Program に SOGC 若手医師 2 名を招待する旨 SOGC へ連絡した。

[AFOG 関係]

(1) AFOFG より、9 月 24 日、26 日に行われる AFOFG 総会についての案内が送られて来た。

総会代表参加者、AFOFG 役員としての立候補、JOGR 担当役員などについて、7 月 1 日までに回答する必要がある。[資料：渉外 4-1]

和氣副理事長「総会代表参加者の人数は 3 名程度と思う。まずこの方々を渉外で決めて理事長の承認を得るようにしてほしい。」

岡井理事「次期編集担当理事が JOGR 担当役員になる。」

和氣副理事長「AFOFG 役員としての立候補者はどうか。現在の役員はどうなっているのか。」

小林主務幹事「現在は本会からの役員は JOGR 担当を除いていない。」

和氣副理事長「この件に関しても理事長と落合副理事長で検討していただきたい。」

[TAOG 関係]

(1) TAOG より、3 月 17 日 US\$40,000、4 月 20 日 US\$35,800、21 日 US\$5,500 が義援金として本会へ送金された。

(2) TAOG からの義援金について、TAOG President へ落合副理事長より本会からの感謝状を手渡した。
[資料：渉外 5]

(3) 第 64 回日産婦学術講演会における Exchange Program に TAOG 役員 3 名、Senior Doctor 1 名、若手医師 5 名を招待する旨 TAOG へ連絡した。

[KSOG 関係]

(1) 第 64 回日産婦学術講演会における Exchange Program に KSOG 役員 3 名、Senior Doctor 1 名、若手医師 5 名を招待する旨 KSOG へ連絡した。

(2) 第 63 回学術講演会参加の際のスポンサーシップについて、KSOG から本会に対して Letter of Authorization の提出を依頼してきた。[資料：渉外 5-1]

吉村理事長「これは韓国の会員が第 63 回学術講演会に参加するに当たり、Letter of Authorization があるとスポンサーシップについてメリットがあるので、本会として署名をした。」

特に異議なく全会一致で承認した。

[その他]

(1) オーストラリア・ニュージーランド産科婦人科学会(RANZCOG)より、大震災についてお見舞いのレターと額入りのメッセージが届いた。[資料：渉外 6]

(2) ”WATOG Foundation Project” について、WATOG (World Association of Trainees in Obstetrics and Gynecology) 組織委員会より協力依頼を受領した。[資料：渉外 7]

6) 社 保 (星合 昊理事欠席につき渡部 社保主務幹事)

(1) 会議開催状況について渡部 洋幹事から報告があった。

(2) 疑義解釈委員会より平成 23 年度第 1 回供給停止予定品目について検討依頼を受領し、本会理事および社保委員による検討結果を回答した。

(3) 厚生労働省医政局経済課医療機器政策室より、医療ニーズの高い医療機器等の早期導入要望に関する意見募集についての通知を受領した。[資料：社保 1]

(4) 厚生労働省保険局医療課より、「公知申請に係る事前評価が終了し、薬事法に基づく承認事項の一部変更承認がなされた医薬品の保険条の取扱いについて」の通知があった。機関誌および HP に掲載して会員に周知を図った。[資料：社保 2]

- (5) 「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」における第1回開発要望の検討状況について、厚生労働省医薬食品局審査管理課から同省HPに掲載している旨の連絡があった。加えて第2回開発要望募集に関する連絡を受け、本会理事、専門委員会委員長、社保委員に要望提出について検討を依頼した。〔資料：社保3〕

7) 専門医制度（櫻木範明理事欠席につき、金内専門医制度主務幹事）

(1) 会議開催

- ① 平成23年度第1回専門医制度中央委員会を5月28日に開催した。
- ② 平成23年度第2回中央委員会と全国地方委員長会議を7月2日に開催する予定である。

(2) 日本専門医制評価・認定機構

5月10日に同機構の平成23年度第1回社員総会が開催された。

(3) 専門医認定二次審査

面接試験担当者に平成23年度面接試験担当の依頼状を送付した(4月27日)。

(4) 専門医制度規約・施行細則の改定 [資料：専門医制度1]

金内主務幹事「委員の増員が可能となるように変更した。また公益法人化に伴う名称変更の改定も行った。」

和氣副理事長「以上の変更について反対意見がなければ理事会として承認したい。」
特に異議なく全会一致で承認した。

(5) 初期臨床研修制度導入後の専門医の質に関する調査について [資料：専門医制度2]

初期臨床研修制度導入後の専門医の質に関する調査用紙を5月24日付で専攻医指導施設(大学病院)へ送付した。

(6) 専攻医指導施設 施設区分について

金内主務幹事「A施設とB施設に分類し、近々ホームページに掲載予定である。」

(7) 平成23年度から専攻医の研修を開始された先生への会員へのお知らせ [資料：専門医制度3]

8) 倫理委員会（嘉村敏治委員長）

(1) 本会の見解に基づく諸登録（平成23年5月31日）

- ① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：44 研究
- ② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：585 施設
- ③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：585 施設
- ④ 顕微授精に関する登録：507 施設
- ⑤ 非配偶者間人工授精に関する登録：16 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

5月31日現在申請229例〔承認195例、非承認4例、審査対象外18例、取り下げ1例、照会中2例、審査中9例〕（承認195例のうち7例は条件付）〔資料：倫理1〕

嘉村理事「資料に示した各症例について承認いただきたい。」

特に異議なく全会一致で承認した。

(3) 会議開催

- ① 平成22年度第6回着床前診断に関する審査小委員会を5月16日に開催した。
- ② 平成22年度第5回倫理委員会を5月30日に開催した。

(4) 扇町レディースクリニックからのAID実施登録施設認可申請について本学会倫理委員会登録・調査

小委員会より受理通知書を送付した。 [資料：倫理2]

(5) 「出生前に行われる検査および診断に関する見解」 [改定案] について [資料：倫理3-1, 3-2]

嘉村理事 「6名のパブリックコメントに対しては平原理事から回答を行った。」

吉村理事長 「2月理事会で承認を得てからホームページで会員からの意見を徴集し、それに対応して部分修正を行ったものである。日本医学会の基本理念を入れるべきであるとの日本ダウン症協会からの要請は、これを前文に入れて対応している。」

岡井理事 「血清マーカーの説明について陰性、陽性の結果を付けるのはおかしいのではないか。」

平原理事 「検査ラボによっては陽性・陰性と言わないので対応したい。NTに関しては産科ガイドラインとの整合性を考慮している。」

木村理事 「超音波専門医がこの出生前診断について習熟しているとは限らないのではないか。」

平原理事 「この点に強く拘る意見もあり、超音波専門医等とした。」

吉村理事長 「以上の審議を踏まえ、各質問に回答し、次の総会にかけることとする。」

特に異議なく全会一致で承認した。

9) 教育 (小西郁生理事)

(1) 会議開催

①5月19日に平成23年度専門医認定筆記試験問題作成委員会を開催し、ほぼ完成した。

②5月19日にSOGC派遣予定者とコンダクターによる打合会を開催した。

③6月3日に第3回若手医師企画打合会を開催した。

④6月10日に第1回教育委員会を若手育成委員会と合同で開催した。

(2) 「産婦人科研修の必修知識2011」頒布状況について

6月1日現在、入金済4,209冊、校費支払のため後払希望53冊。

初版5000部を完売見込みのため、3000部増刷する予定である。

(3) 「産婦人科研修の必修知識2011」ならびに「用語集」電子版発刊について

産婦人科研修の必修知識2011については震災の影響等で大幅に発刊が遅れ5月18日から発送を開始したが、1年後に電子版での発刊を予定している(書籍版産婦人科研修の必修知識2011購入者については巻末のクーポンを提出いただければ割引価格で電子版を購入できるように考えている)

また、用語集に関しても電子版での発刊ならびにi-phoneでの検索なども考慮する。電子版については契約企業や経費に関してさらに検討してまた審議にかけたい。

[資料：教育1]

(4) 第4回若手医師企画若手グループ委員について [資料：教育2]

小西理事 「新しく選出した15名のメンバーを承認いただきたい。」

特に異議なく全会一致で承認した。

(5) スプリングフォーラムについて

小西理事 「先月の常務理事会で議論されたように、今後3年間程度同様の企画を進めていきたい。」

吉村理事長 「若手の横のつながりが形成できるように継続していただきたい。」

10) 地方連絡委員会 (和氣徳夫副理事長)

(1) 業務委託契約書締結のため、地方連絡委員会委員あてに業務委託契約書原本および案内状を5月25日に送付した。 [資料：地方連絡委員会1]

片渕理事 「他府県に赴任した場合は本来所属している病院が所在する地方学会に移籍するように本会からも指導すべきではないか。」

和氣副理事長 「内規を厳格に適用するとご指摘の通りになるが、多少柔軟に対応していただきたい。」

吉村理事長 「原則としては、移籍を進めるように指導をしていきたい。」

岡村監事「業務委託書に係る通知で、弔電に関する記載は削除するべきではないか」
吉村理事長「あえて書くことでもないように思うが、対応を検討したい。」

IV. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会（吉川史隆委員長欠席につき、矢野幹事長）

(1) 会議開催

①5月20日、広報委員会・情報処理小委員会第1回合同委員会を開催した。

(2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報1]

(3) ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について [資料：広報2]

(4) ホームページアクセス状況について [資料：広報3]

(5) 本会ホームページに掲載のアボットジャパン（株）のバナー広告について、2011年5月1日から2012年4月30日までの掲載延長が決定した。

(6) 本会 website へのリンク許可について

①水道水について心配しておられる妊娠・授乳中女性へのご案内
内閣府食品安全委員会

②病気を知ろう

三豊・観音寺市医師会

③放射性ヨウ素（I-131）が検出された母乳に関し、乳児への影響を心配しておられる授乳中女性へのご案内

千葉県健康福祉部児童家庭課

④トップページ

メルクセローノ（株）、群馬県桐生市市民生活部 環境政策課

2) コンプライアンス委員会（平松祐司委員長）

(1) コンプライアンス関連新聞記事 [資料：コンプライアンス 1]

6月1日付 日経新聞記事「医師に不適切な金銭提供 公取協が厳重警告」

3) 医療改革委員会（海野信也委員長）

(1) 平成23年度の活動計画 [資料：医療改革 1]

海野委員長「今後のアクションプランは新しい体制下で提示していくことになるが、新たに震災に伴う被災者の、地域をまたいだ移動等による診療体制の危機化の問題も出現しており、今後も学会全体で議論を進めていただきたい。」

(2) 第1回婦人科腫瘍診療に関するアンケート調査 中間解析報告（案）

[資料：医療改革 2-1, 2-2, 2-3]

高倉幹事「アンケートは64.5%の回答率。中間解析段階での報告であり、今後追加解析を行うが、興味深い内容も示されている。」

片瀝理事「婦人科腫瘍治療の現場で起こっている問題点を初めて明らかにした貴重なデータであり、日頃から感じていたことともマッチしている。進行症例や合併症、高齢者の患者が大学病院に集中しており、大学病院は対応人員が多いにも拘わらずアップアップになっている。これを明らかにしたことは外科全体に係わる問題点を示しており、高く評価したい。」

海野委員長「このデータを利用して医療施設の改善につなげていきたいと考えている。」

(3)原子力損害に対する補償について [資料：医療改革 3]

海野委員長「日本病院協会の作製した、休業により使用不可能となる医薬品・医療機器、患者数減少による経営状態の悪化に関連する補償請求である。補償を求める際、本学会へも協力を求められることが考えられる。また国のエネルギー対策について、学会としての考え方を示す必要性が出てくるかもしれない。」

吉村理事長「放射線問題に関連した被災者からの電話応対で事務局が対応に苦慮している問題がある。」

和氣副理事長「この問題は個別性もあり、簡単には問合せへの答えは出せない。」

岡井理事「内容にもよるが、答えられる範囲のことは答えてあげた方が良い。」

岡村監事「被災者からの電話質問に関しては学会のホームページを参照するようにして即座にお答えする姿勢は必要である。」

吉村理事長「被災者からの電話での問い合わせの実態を記録しておいて、国民が不安に思っていることを厚労省に対して報告できるように準備しておいてほしい。」

4) 男女共同参画委員会 (竹下俊行委員長) 特になし

5) 若手育成委員会 (齋藤滋委員長)

(1)「第5回産婦人科サマースクール in 美ヶ原」

会期：平成23年8月6日(土)～7日(日)

場所：長野・美ヶ原温泉ホテル翔峰

① 募集関係

募集人数：初期研修医：200名

医学部学生：100名

(募集人数をこえた場合には抽選)

募集期間：平成23年5月20日～6月25日(学会事務局必着)

今回は応募者宛に応募書類受領書を発送している。

5月25日現在応募状況：25名

② 開催概要 [資料：若手育成委員会1]

齋藤委員長「現在資料に示したように準備をすすめているが、今回参加者から託児所がほしいとの依頼があった。参加希望の女性のみならず参加男性や指導する立場の若手医師も利用してもらう方針で考えている。またサマースクールの内容に関する問い合わせも多いので、宣伝目的でDVDを作成したい。もう一点、東北産婦人科学会から次回のサマースクールは東北で開催したいとの希望があり、昨日の委員会ではその方針となった。以上3点に関して理事会の承認を得たい。」

和氣副理事長「内容は了解できるが、サマースクールについては今年から学会からの予算を増やしており、可能な限りその範囲で対応してほしい。」

吉村理事長「託児所とDVDはその方針で行きたいが、東北で開催に関して主旨は賛成であるが、利便性については是非良く検討して最終決定していただきたい。」

(2) 会議開催

①5月6日に第5回産婦人科サマースクール in 美ヶ原の打合会を開催した。

②5月20日に第5回産婦人科サマースクール若手医師企画打合会を開催した。

V. その他

以上

平成 23 年度第 1 回理事会配布資料

資料 No.	資料名
	倫理的に注意すべき事項に関する見解
1	平成 23 年度第 1 回臨時理事会議事録（案）
2	業務担当理事報告並びに関連協議事項予定内容
会 計 1	平成 22 年度収支計算書
会 計 2	平成 22 年度財務諸表
会 計 3	附属資料
会 計 4	平成 22 年度収支計算説明書
会 計 5	監査報告書
会 計 6	独立監査人の監査報告書
運営委員会 1	答申書
運営委員会 2	平成 23 年度日本産科婦人科学会定時総会次第(案)
運営委員会 3	会員へのお知らせ
運営委員会 4	中期計画 WG 答申
運営委員会 5	女性ヘルスケア委員会、親委員会委員数の増加に関する要望書
運営委員会 6	公開シンポジウム「東日本大震災に負けない—全国産婦人科医の連携」
専門委員会 1	日本産科婦人科学会専門委員会委員氏名
専門委員会 無番	「絨毛性疾患取扱い規約」
専門委員会 2	卵巣がん関連新聞記事
専門委員会 3	正期産新生児の診療指針の合同会議報告
専門委員会 4	抗インフルエンザウイルス薬投与妊婦の出産と小児に対する特定使用成績調査」論文投稿への協力願い
専門委員会 5	平成 23 年度 周産期における医薬品・医療機器の諸課題に関する小委員会議事録
専門委員会 6	「母乳中の放射性物質濃度等に関する調査」
専門委員会 7	「母乳中の放射性物質濃度等に関する調査」についての Q&A
専門委員会 8	母乳調査に関する新聞記事
総 務 1	日本産科婦人科学会 年代別・男女別会員数
総 務 2	義援金（支援金）配分について
総 務 3	震災医師派遣担当校
総 務 4	大気や飲食物の軽度放射性物質汚染について心配しておられる妊娠・授乳中女性へのご案内（続報）
総 務 5	大気や飲食物の軽度放射性物質汚染について心配しておられる妊娠・授乳中女性のための Q&A
総 務 6	放射性ヨウ素（I-131）が検出された母乳に関して心配しておられる授乳中女性へのご案内
総 務 7	業務委託基本契約書(案)
総 務 8	日本医師会医師主導治験支援センターへの支援申請に当たっての本会からの推薦を求める要望書
総 務 9	尿由来ゴナドトロピン製剤についてのプリオン混入について
総 務 10	公益法人等の被災者支援、震災復興の活動、寄附について
総 務 11	東日本大震災に伴う出産費等の医療機関等への直接支払制度における組合員証等の提示について

総務 12	医療用医薬品の有効成分のうち一般用医薬品としての利用も可能と考えられる候補成分について
総務 13	子宮頸がん関連新聞記事
総務 14	被災地で実施される調査・研究について
総務 15	再生・細胞医療に関する臨床研究から実用化への切れ目ない移行を可能とする制度的枠組みについて
総務 16	文部科学省「福島県内の学校・校庭等の利用判断における暫定的な考え方」に対する日本医師会の見解
総務 17	「平成 23 年度女子医学生、研修医等をサポートするための会」の開催について
総務 18	日本婦人科腫瘍学会頸癌治療ガイドライン 2011 年版パブリックコメントについて
総務 19	「子宮頸がん予防ワクチンの接種スケジュールについて」のステートメント
総務 20	「未承認医療機器の臨床研究実施の手引き(案)」に関する意見募集のご協力をお願い
総務 21	デュファストン錠®5mg の供給について
会計 7	取引銀行の格付と預金残高
学術 1	平成 23 年度学術奨励賞の推薦および応募について
学術 2	平成 23 年度優秀論文賞公募について
学術 3	平成 23 年度「日本医師会医学賞」「日本医師会医学研究助成費」候補の推薦について
学術 3-1	平成 23 年度日本医師会医学研究奨励賞候補者推薦書
プログラム委員会 1	第 63 回日本産科婦人科学会学術講演会日程表
プログラム委員会無番	第 63 回日本産科婦人科学会学術講演会関連
プログラム委員会 2	第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会のご案内
プログラム委員会 2-1	第 64 回学術講演会予告（第 1 回）
プログラム委員会 3	第 65 回学術講演会特別講演演者の推薦について
プログラム委員会 4	第 66 回学術講演会シンポジウム課題公募について
編集 1	JOGR 編集状況ご報告 2011 年 5 月 23 日
編集 2	和文機関誌ならびに英文機関誌の COI に関する方針
渉外 1	59 回 ACOG Annual Clinical Meeting 参加報告
渉外 2	CREOG EDUCATION RETREAT
渉外 3	Statement of solidarity for Japan
渉外 4	Andre Lalonde Permanent Endowment Fund” についての協力依頼
渉外 4-1	AFOG よりの総会案内
渉外 5	Andre Lalonde Permanent Endowment Fund” についての協力依頼
渉外 5-1	KSOG からの学術講演会参加のスポンサーシップについての依頼
渉外 6	RANZCOG よりの大震災についてお見舞いのレターとメッセージ
渉外 7	WATOG 組織委員会よりの協力依頼
社保 1	医療ニーズの高い医療機器等の早期導入要望に関する意見募集について
社保 2	公知申請に係る事前評価が終了し、薬事法に基づく承認事項の一部変更承認がなされた医薬品の保険条の取扱いについて
社保 3	医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の第 2 回開発要望募集に関する説明会及び募集の流れ等について
専門医制度 1	専門医制度規約・施行細則新旧対照表
専門医制度 2	初期臨床研修制度導入後の専門医の質に関する調査
専門医制度 3	平成 23 年度から専攻医の研修を開始された先生への会員へのお知らせ

倫理 1	平成 22 年度第 6 回着床前診断審査小委員会報告
倫理 2	「非配偶者間人工授精に関する登録」受理通知書
倫理 3-1	「出生前に行われる検査および診断に関する見解」[改定案]
倫理 3-2	「出生前に行われる検査および診断に関する見解」に対する意見
教育 1	電子書籍のご案内
教育 2	第 4 回若手医師企画若手グループ委員
地方連絡 1	業務委託契約書の締結について
広報 1	JSOG-JOBNET 事業報告
広報 2	ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について
広報 3	JSOG ホームページアクセス状況
コンプライアンス 1	コンプライアンス関連新聞記事
医療改革 1	平成 23 年度の活動計画
医療改革 2-1	第 1 回婦人科腫瘍診療に関するアンケート調査 中間解析報告書(案)
医療改革 2-2	第 1 回婦人科腫瘍診療に関するアンケート調査 中間解析報告書(案)
医療改革 2-3	婦人科腫瘍診療に関するアンケート調査用紙
医療改革 3	原子力損害に対する補償について
若手育成 1	第 5 回産婦人科サマースクール会場使用案